

「置かれた場所で咲きなさい」より抜粋①

10/10/2012

北村社会福祉士事務所

人はどんな境遇でも輝ける。どうしても咲けないときは、下へ下へと根をのばす。つらい日々も、笑える日につながっているのです。 ノートルダム清心学園理事長 渡辺和子著（2012/4月 出版元:幻灯舎）

この本より私が気に入った文書を抜粋しました。

・どんなところに置かれても、花を咲かせる心を持ち続けよう

境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる。「現在」というかけがえない時間を精一杯生きよう。

・働くことはすばらしい。しかし、仕事の奴隷になってはいけない。

きちんとまわりが見えているだろうか？ 心にゆとりがないと自分も他人もいたわれない。

・結果がよかった時は、人の功績に。悪かった時は、自分が悪者になる。

委ねるということは、人に感謝するとともに、自分自身に責任をもつということ。

・苦しい峠でも必ず、下り坂になる。

人はどんな険しい峠でも越える力を持っている。そして、苦しさを乗り越えた人ほど強くなれる。

・自分が積極的に動いて、初めて幸せを手に入れることができる。

他人まかせでは幸せは得られない。自分が光となって世の中を照らそう。

・きれいさはお金で買えるが、心の美しさは買えない。

心の美しさは、自分の心との戦いによってのみ得られる。

・子どもは親や教師の「いう通り」にならないが、「する通り」になる。

子どもに何かを伝えるのに言葉はいらない。ただ、誠実に努力して生きていくだけでよい。

・いい出会いにするためには、自分が苦勞をして出会いを育てなければならない。

出会っただけでは信頼関係を結べない。「このご縁を大事にしよう」という気持ちを育てていこう。

・何もできなくてもいい。ただ笑顔でいよう。

笑顔でいると、不思議と何事もうまくいく。ほほえまされた相手も、自分も心豊かになれるから。

・苦しいからこそ、もうちょっと生きてみる。

生きることは大変だが、生きようと覚悟を決めることは、人に力と勇気を与えてくれる。

・”あなたが大切だ”と誰かにいってもらえるだけで、生きてゆける。

人は皆、愛情に飢えている。存在を認められるだけで、人はもっと強くなれる。

以上